

「教育ボランティア ニュースレター」は年2回発行しています。第4号ができましたので、お届けいたします。

教育ボランティア ニュースレター

第4号

発行日 平成21年3月

「災害看護システム論」

学内ボランティアさん、迫真の演技！

本年度も、たくさんの「学内ボランティア」さんや「実習ボランティア」さんに、本学の教育にご協力頂きました。

このレターでは、「災害看護システム論」と「健康生活支援学実習Ⅰ」での、教育ボランティアさんの様子や学生の学びをお届けしたいと思います。

平成20年12月11日(木)、学内ボランティアさん10名にご協力頂き、「災害看護システム論」トリアージ演習を行いました。この演習は、災害場面を想定し、そのなかで学生が被災者やその家族、トリアージ施行者などを演じ、トリアージについての知識や技術を習得することを目的に行いました。

今回、ボランティアさんには、被災者やその家族を演じて頂きました。いざ演習が始まると、ボランティアさんは、迫真の演技で被災者やその家族を演じて下さいました。「痛い、痛い！」「早くこっちに来てみて！」など、学生もその気迫に負けまいと真剣に演習に取り組んでいました。

演習終了後には、ボランティアさんより「突然のショックで声も出ない人が大半である。話せない人の表情を感じ取る機敏さがあればと思った。」など、

貴重なご意見を頂きました。それを聞いた学生は、「住民の方からの、声を出せない人にも目を向けてほしいという内容は、とても参考になった。」「住民の方からの意見は、とても客観的で参考になった。」など、被災者やその家族を演じて下さったボランティアさんよりたくさんのことを学ばせて頂きました。



【トリアージ演習の様子】

トリアージ:大規模災害など、多数の傷病者が発生した際に、緊急度に応じて搬送や治療の優先順位を決定すること。

「健康生活支援学実習Ⅰ」

実習ボランティアさんとの出会いからの学び

「学内ボランティア」さんは、現在も募集中です！

学生の教育にご協力ください。

平成21年2月9日～2月27日、「健康生活支援学実習Ⅰ」に93名の実習ボランティアさんにご協力を頂きました。学生は、ボランティアさんに会うまではとても緊張していましたが、実際に会って話しを聞かせて頂くと、「とても親切で、質問に対して丁寧に答えて下さった。」「実際に話しを聞いて、地域での生活を知ることができた。」「高齢者が、地域活動に熱心で、すご

く元気であることに気付き、高齢者に対するイメージが変わった。」など、実習ボランティアさんとの出会いから、多くのことを感じ、学ばせて頂きました。

これからも実習ボランティアさんに助けて頂きながら、学生へ学びの場を提供していきたいと考えています。